2024年度（春スタート・１年）
Mary Baldwin University

M. N.　社会システム学科・３年次生

Ⅰ．留学レポート

① 協定留学を目指した理由

わたしが留学を目指した理由はいくつかあるのですが、大きなものとしては異文化に興味があったことが挙げられます。幼い頃から両親の影響や外国の方と関わる機会があったことで、漠然と海外に興味を持っていたと思いますが、高校生、大学生の頃から海外の様々な文化、特にアメリカの多様性について興味を持つようになり、実際に海外に行って異なる文化や価値観を学びたいと思うようになりました。協定大学留学を目指した理由としては、授業料が免除されること、現地大学で履修した授業の単位認定が行われることなどがありますが、一番の理由は現地大学の正規授業を履修できるという点です。自分の興味のあることを日本とは違った視点で学べるかもしれないという点にとても魅力を感じました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

私はIELTSのスコアを取得し、出願しました。IELTSにはReading,　Writing, Listening, Speakingのセクションがあり、主にIELTS対策本、単語本、公式問題集を使って勉強しました。特に公式問題集は本番形式の問題が載っているものを使っており、何度も解くことで解き方のコツや時間配分などを学べたので、とても役に立ったと思います。また、YouTubeのSpeaking対策動画などを見ながら実際に話す練習をしたり、国際課が開催しているのChat roomに通ったりしていました。Chat roomの先生方は、留学を目指していることを伝えるとIELTSの対策だけでなく、語学学校のことなど留学に関する様々な相談にのってくださり、利用してよかったと感じています。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

YouTubeや映画、音楽などを英語で聞き、できる限り英語に触れることを意識して過ごしていました。また、Chat roomにもできる限り参加していました。

◆ ビザ申請方法

留学前オリエンテーションで教えていただいた情報をもとにオンラインで申請をしました。申請の際に入力しなければならない情報が多く大変でしたが、早いうちから申請準備を始めたことで余裕をもってできたかなと思います。

◆ その他

準備期間には他に、語学学校の決定と申し込み、ワクチン接種、SIMカードの購入、現地大学での履修希望科目を考えることなど、しなければならないことがかなり多かったので、

することリストを作って自分で把握できるようにしていました。ほとんどが初めてのことで大変でしたが、全てが留学準備として良い経験だったと思います。特に、語学学校の申し込みに苦労しました。ですが、現地のスタッフの方と直接メールでやり取りをして進めたことで、語学面も含めとても良い経験なっていたと感じています。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

語学学校があるイリノイ州シカゴのO’Hare空港からは、事前に申し込みをしていた語学学校の送迎サービスを利用してホームステイ先まで移動しました。MBU に移動する際は、バージニア州の Charlottesville 空港に入寮日の前日に到着したので、ホテルで一泊し、翌日 MBU の先生にホテルまで迎えに来ていただきました。事前に入寮日前日のフライトで Charlottesville 空港に到着する旨を MBU の先生に連絡すると、ホテルの情報などを教えてくださいました。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

語学学校では授業開始前に 1 日オリエンテーションがありました。このオリエンテーションでは、授業に関する説明やクラス発表、校舎の案内などが行われました。翌日からすぐ授業開始でしたので、分からないことや不安なことはその日に伝えるようにしました。MBU では 4 日間のオリエンテーションがありました。現地の 1 年生と一緒に学校の説明を受けたり、様々なイベントに参加したりしました。また、私たち留学生だけのオリエンテーションもしていただき、担当の先生や留学生アンバサダーの方々からの説明を聞いたり質問をしたりする機会がありました。

◆ その他必要な諸手続き方法

現地での口座開設は行わず、ほとんどの支払いはクレジットカードや現金でいました。語学学校の費用の支払いは、現地到着前 1 回、授業開始後に 2 回と 3 回に分けてクレジットで支払いました。MBU に行く前には寮費や食費の支払いをする必要があり、こちらは Wise という海外送金サービスのアプリを利用しました。現地へはいくらか現金を持って行きましたが、足りなくなる場合を考慮して ATM からクレジットカードで現金を引き出せるようにしていました。海外旅行保険は留学前のオリエンテーションで説明があり、国際課を通して加入しました。その他の手続きとして、語学学校から MBU に移動する前に I-20（大学から必ず発行してもらう入学証明書）の移行が必要でした。この手続きは語学学校の先生に MBU に行く旨を伝えると、MBU の方と連絡を取って手続きをしてくださったので、ほとんどすることはありませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

私はイリノイ州シカゴにある Dominican University 内の ELS（English Language School）に通っていました。学校は閑静な住宅街の中にあり、落ち着いて勉強できました。学生は私のような日本人大学生も多くいましたが、その他にコロンビア、ブラジル、タイ、中国などからの方々もおり、様々なバックグラウンドを持つ人と出会えたことがとてもよかったと感じています。また、先生方はフレンドリーでとても話しやすく、授業に関わる話以外もとても親身に聞いてくださりました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は月曜日から木曜日は朝 8 時半から 15 時 45 分まで、金曜日は午前中のみというスケジュールでした。また 4 週間ごとに試験があり、そこでパスすると上のクラスに上がれるというシステムでした。内容は主に reading, writing, grammar などで、課題はほとんどなくそれほど大変ではありませんでしたが、writing の授業は MBU でのレポート課題などのためになったと感じています。授業以外には、平日の授業終わりや週末に ELS 主催のアクティビティなどがあり、みんなで映画を見に行ったりしました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

MBU はバージニア州の小さな田舎の町にあります。大学の建物は白を基調としていてとても綺麗でした。また、それほど大きなキャンパスではなく寮もキャンパス内にあるため教室間の移動などがとても便利でした。大学構内、周辺は自然豊かで落ち着いた環境でした。周辺には小さな Downtown、ある程度の日用品などが買えるお店やスーパーがあり、これらは徒歩で行くことが出来ます。公共のバスは学生証を見せると無料で利用でき、大きなスーパーに行くことが出来ました。

◆ 履修科目について

・INT 330 Exploration Leadership Development

自分自身のリーダーシップスキルについて学び、それをどのように発展させるのかを考えるという授業でした。学期前半では様々なセルフアセスメントを行い、自己分析を通してリーダーシップスキルを高めるためにどのような行動が必要なのかを考えました。後半にはリーダーシップスキルを実践的に使うためにチームプロジェクトをしました。大きな課題としては中間のレポートと最終課題のプレゼンテーションでした。比較的受講人数の少ないクラスで、教授や周りの学生も親身になってサポートしてくださいました。

・BIOL 148 Environmental Issues

気候変動、水質汚染などさまざまな環境問題について学びました。このクラスは人数が多く、教授の講義がほとんどで時々グループワークも行いました。学期内に 4 回の試験と最終試

験があり、これらの試験が最終成績の割合の多くを占めていました。知らない単語も多く、講義を理解することが最初はかなり難しかったです。試験問題も難しかったため、特に試験前にはかなり勉強していたと思います。

・SOWK 353 Social Work w/ Diverse Populations

文化、人種、ジェンダー、宗教などの多様性について理解し、多様化する社会においてのソーシャルワーカーとしての実践について学びました。この授業を履修するにあたって、ソーシャルワークの基礎のクラスなどを履修しある程度の知識を持っていればもっと深い学びが出来たのではないかと思いました。しかし、多様化が進む社会で過ごす中でとても役に立つ学びが出来たと感じています。課題はオンライン試験、レポートなどがありました。クラスは 10 人ほどの小規模で、教授の講義だけでなく生徒同士のディスカッションも頻繁にありました。

・ANTH 120 Culture and Perspective

人類学の基礎や、宗教、ジェンダー、婚姻制度などの様々な文化的要素を民族の例などを用いながら学び、現代社会において文化人類学がどのように重要なのかを考えました。毎週オンライン小テストがあり、中間と期末には Essay 形式のオンライン試験がありました。また、最終課題ではグループでプレゼンも行いました。授業前には予習としてテキストや Website の指定された箇所に目を通していく必要がありました。このクラスも人数の多いクラスでしたが、教授がとても優しい方で、分からないことや質問などにとても丁寧に対応してくださいました。

・BUAD 250 Gender in the Workplace

職場における男女の違いやジェンダーマイノリティなどについて学びました。また、ジェンダーだけでなく Diversity（多様性）について深く学ぶ機会もありました。授業スタイルとしては、グループやクラス全体でのディスカッションが主で、プレゼンをする機会も何度かあります。課題は毎週の振り返りレポートがあり、最終課題としてはグループで Podcast を作成したりしました。私自身、履修したどの授業もとてもよかったですが、この授業は特に履修してよかったと感じています。

・JPNS 101 Beginning Japanese I

この授業は先生のサポートをする Teaching Assistant として参加しました。主に、学生の宿題を採点したり、週に 1 度クラスに参加し学生の質問があれば対応したりしました。英語を母国語とする学生がどのように日本語を学ぶのか、どのようなところに難しさを感じるのかなどを知ることができ、興味深かったです。最終週には学生たちが日本語でプレゼンをする課題があり、その際に私は英語で同志社女子大学についてのプレゼンをしました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

9 月の初めごろに Club Rush という各クラブの説明などを聞くことが出来る機会があり、その際にいくつか申し込みをしたのですが、その後の活動の情報がなかったり活動に行ってみたもののあまり合わないなと感じたりしたことから、どこのクラブにも所属しませんでした。クラブではありませんが、Office of Inclusive Excellence が主催するイベントには参加したことがあります。ボランティア活動としては、９月末に学校の近くで行われるお祭りのボランティアに参加しました。また１０月に Apple Day という授業が休みの日があり、その日に近くの Private School でボランティアをしました。これは MBU からのメール通して申し込みをし、参加しました。

⑧ 現地での住まいについて

◆ 語学研修期間

寮かホームステイを選ぶことができ、私はホームステイを選びました。理由としてはよりネイティブの英語に触れることが出来ると考えたからです。私のホームステイ先にはホストマザーと私含め５人の留学生がいました。部屋は１人１部屋用意してくださっていました。食事は朝と夜はホームステイ先で、昼食は含まれていなかったので自分で用意していました。学校までは歩いて１５分ほどの距離で周りと比べるとかなり近い方だったと思います。

◆ 正規科目履修期間

McClung という寮に住んでいました。寮は大学内にあり、授業が行われる校舎や図書館などにもとても近く便利でした。2 階と 3 階に学生が住む部屋、共同のトイレとシャワーがあり、1 階にロビー、キッチン、洗濯機などがありました。部屋は基本的に 2 人か 3 人部屋で、私は同じ同志社女子大学の子がルームメイトでした。食事は、1 番制限の少ないミールプランに入っていたので朝、昼、晩と大学内の食堂やカフェを利用することが出来ました。

⑨長期休暇の過ごし方

語学学校終了後から MBU に行くまでは５日間ほどあり、その期間はホームステイ先で過ごしました。MBU では Fall Break（10 月の 4 日間）と Thanksgiving（11 月末の 5 日間）のお休みがありました。どちらの休暇も旅行などには行きませんでしたが、アメリカに住む友達が会いに来てくれ、MBU の近くに住むご家族（過年度の留学生の方が紹介してくださいました。）の家に遊びに行かせていただきました。また、Thanksgiving の休み明けは最終週でしたので、最終課題を進めたりもしていました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

11 月にボストンで行われるボストンキャリアフォーラムに参加しました。私は進学を考えていることもあり、キャリアフォーラムには 1 日のみの参加でしたが自分の将来について

改めて考えるきっかけになったので行ってよかったと思っています。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中にしたすべての経験が新鮮で楽しく、思い出に残っており選ぶことは難しいですが、いくつか挙げるとすれば語学研修期間に様々な国出身のクラスメートたちと出かけたこと、MBU での授業、帰国前に１人で旅行をしたことなどです。語学研修中にはほとんど毎週末クラスメートたちと出かけていました。行く先々で見たもの経験したことはもちろんとても思い出に残っていますが、国籍も年齢も異なる友人たちと行動を共にする中でそれぞれの国についてたくさん話したり、様々な文化や価値観を知れたりしたことがとても印象に残っています。MBU での授業はどれも深い学びが出来たと感じており、とても大変ではありましたが今では楽しく本当に良い経験だったと思っています。帰国前には 1 人で旅行に行きました。1 人での旅行は始めだったこともあり、ちょっとしたトラブルがあり、少しドキドキしましたがとても楽しくいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

語学研修期間の最初に滞在していたホームステイ先の環境があまりよくなかったことがありました。語学学校の先生に相談したところ、すぐに対応してくださりホストファミリーを変えていただきました。

また、MBU での最初の頃は授業についていくことが難しく、日本とは異なる授業スタイルになかなか慣れることが出来ずに苦労しました。ですが周りのサポートや予習復習を行うことで少しずつ慣れ、秋学期が終わるころには授業を少し楽しめるようになっていたと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本とは異なることばかりですべてが新鮮で面白く感じていました。実際にアメリカで過ごすことで、1 つの国の中に本当にたくさんの文化があることを改めて実感しました。私が現地で出会った方々の中にも南米、アジア、ヨーロッパ、アフリカなど様々な国にルーツを持つ人が多くおり、そういった点でやはりとても興味深いなと感じていました。驚いたこととしては、大統領選挙への関心度です。私が留学していた 2024 年は大統領選挙が行われていました。選挙期間中はテレビで候補者同士の Debate などが行われ、MBU ではそのたびに Debate Watch Party が開かれたり、投票日には学生同士で投票に行くことを促し合っているような雰囲気があったりし、選挙への関心度がとても高いなと感じました。

2024 年度（春スタート・１年）
Mary Baldwin University

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

周りのスタッフの方々や先生、教授のサポートが手厚かったことが ELS と MBU のどちらにも共通する良かった点です。私が留学中に出会った方々は皆さんとても優しく授業や学校に関わること以外でも親身に話を聞いてくださっていました。ELS での授業はあまり厳しくなく課題もあまりないので、授業だけで英語力を伸ばすのは難しいかもしれないと感じ、そこが悪かった点であると言えます。ですが ELS はシカゴの Downtown にも行きやすく、その分学校外でもたくさんの経験が出来たことがよかったです。MBU は田舎で学業に専念できる良い環境だと感じました。その反面、周辺に観光する場所や遊べる場所が少なく公共交通機関も十分でなかったことが不便に感じていました。そのため、周りにいる人々とのつながりを意識することでより充実した生活が送れると思います。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは持参しました。授業の課題のほとんどがオンラインで提出でしたので、パソコンは必要です。役に立ったものとしては、風邪薬などの薬類です。私は日本から市販の風邪薬などを持参しました。現地のスーパーなどでも買うことは出来ますが、日本のなじみあるものを持っておくことで風邪をひいた時などには安心でした。アメリカの寮やホームステイ先では土足の場合が多いと思うので、脱ぎ着しやすいサンダルがあれば快適に過ごせると思います。その他に私はホストファミリーや現地でできた友達に渡せるようにちょっとした日本のお土産や日本のお菓子などを持っていきました。喜んでいただけますし、それをきっかけに話が広がったりすることもあるので持って行ってよかったと思っています。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関しては確実に向上したと思っています。特に reading と listening のスキルが伸びたと感じています。Speaking 力も確実に向上したと思いますが、留学前に思い描いていたよりは伸びなかったなというのが正直な感想です。語学面以外に関しては、留学先で異なる文化や価値観に触れたことで自分自身の価値観や視野が広がったと感じています。また、これまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなく、もっと違う世界があるということに改めて気づくことが出来ました。その他にも行動力や積極性などを養うことが出来たと思います。留学中は決してうまくいったことばかりではありませんが、全ての経験を通して本当にたくさんのものを得ることが出来ました。語学力の向上はもちろん留学で得た成果ですが、語学力以上にその他に得たもの（精神面や価値観にみられる変化など）が大きく、海外で生活するからこそ得られたものだと感じています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

少しでも留学に興味があれば、行動に起こしてぜひチャレンジしてほしいなと思います。留学から得られるものは想像以上に大きく、全ての経験が自分の人生において確実にプラスになります。応援しています！

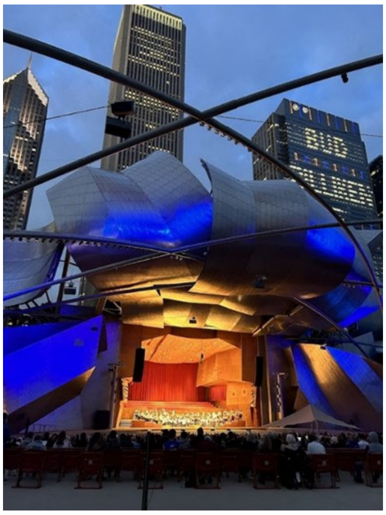
Ⅳ．将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

まずは今回の留学で得た語学力を落とさず、どんどん伸ばせていけるように英語の勉強を継続します。今後の進路としては、現在もう１度留学することを目指しています。それが叶った場合のその先の将来や叶わなかった場合については、まだ明確な計画がありませんが、とにかく目標を達成できるように頑張ろうと思っています。将来の夢もまだ明確ではないのですが、国際的な立場で活躍できる人間になりたいと考えています。

Ⅴ．写真

初めて Downtown Chicago に行った時の写真です。何もかもが初めてみる景色でとにかく圧倒されたことを覚えています。

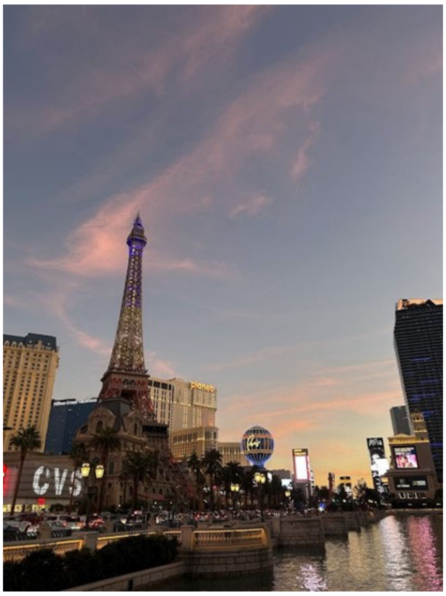


語学学校での友達とオーケストラのコンサートを見に行きました。夏のシカゴでは音楽イベントなどが多く開かれます。オーケストラコンサートもほとんど毎週無料で行われていました。

2024年度（春スタート・１年）
Mary Baldwin University

Exploration Leadership Developmentの授業の先生に誘っていただき､VWILの学生とHikingに行きました。現地の学生とも交流を深められてとても楽しかったです。

MBU のキャンパス内で撮った写真です。秋は紅葉がとても綺麗でした。



帰国前にLas VegasとGrand Canyonに行きました。この写真はLas Vegasで撮ったものです。